

事業者向け 放課後等デイサービス評価表

公表日：

2025/3/14

事業所名：放課後等デイサービス キッズワンハート知多にしの台教室

配布数 16人 回収数 16人 割合100%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた 改善目標、工夫している点
環境 ・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	5	2	・利用者様の年齢とライフステージと教室が合致していない時がある。
	2	職員の配置数は適切である	5	11		・日によって人手が足りないと感じる時がある。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	10	4	2	・設置型のスロープによりバリアフリーで対応することができているが、教室毎に段差はある。解消に向けて工夫する余地がある。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7	6	2	※無効票：1 ・起案書などPDCAサイクルの下地は出来ているが、全スタッフが取り組めているとは言い難い。 ・支援の振り返りと次に向けた話し合いが増えると良い。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10	6		・前年度に実施された評価表に関しては、内容についてスタッフ間で共有を行い、事業所内の環境整備を行っている。 ・施設運営に於いて苦情や質問、相談については真摯に向き合いながら業務改善の対応をしている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	14	2		・事業者向けサービス評価表等については、HPにて公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	8	1	・第三者による外部評価は行っていない。 ・定期的に本事業所以外のスタッフや外部講師に支援内容について相談を行い、支援内容が利用者様に即したものであるかを確認している。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	12	4		・必要な人に必要な研修が行っているか不明。現在は希望した研修でスケジュールを組み参加していただいている。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	11	5		・面談を6カ月に1度実施し、事業所内での様子や家庭での様子、支援についての質問やニーズなどのアセスメントをその都度更新している。

適切な支援の提供	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	8	1	・利用者様の障害特性や適応行動の把握のために、スタッフ一人での判断ではなく、全員での行動の共有を行い支援を統一していけるようにしている。アセスメントツールは使用していないが、冰山モデル等を用いて利用者様の行動の意味と特性を探っている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	9	6	1	・利用者様が楽しめる活動、利用者様に合わせた活動であることを念頭に置き、支援内容を検討する。必要に応じ内容を分けて、それぞれの障害特性やライフステージに合致した活動を計画している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	12	4		・毎日活動を変えて提供しており、活動が固定としないようにしている。 ・支援内容と季節に応じた活動について検討し、継続して取り組むことで学習効果を高める活動を計画している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	6	3	・長期休暇は特に支援に対する細やかな事前準備が難しい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	10	6		・個別活動としての自立課題と余暇活動、集団活動として行事予定表に記載した活動を提供している。 ・活動参加への拒否がある方に関しては、内容や環境の変更を行い、最終的な参加を目指してそれぞれに応じた参加の仕方を提案している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	13	2	1	・利用者様に関する情報の共有を午前・午後の2度行い、全スタッフで共有できるようにしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10	4	2	・支援内容の共有は行えている。次の支援に向けた話し合いがもっと増えると良い。 ・前日の振り返りを行えている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11	3	2	・毎日の朝礼時にスタッフ同士で情報共有を行っている。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	10	6		・面談を6カ月に1度実施し、事業所内での様子や家庭での様子、支援についての質問やニーズなどをその都度更新している。利用者様の現状に即した見直しを行っている。	

	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	6	10		<ul style="list-style-type: none"> ・活動を決定する際には利用者様がどのように活動に参加されるのか、参加することにどのようなメリットが生じるのかを考える。 ・利用者様並びに保護者様とスタッフが利用者様の将来を考えて必要な能力を獲得することができるよう支援を行う。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10	6		<ul style="list-style-type: none"> ・会議に参加する前に教室内での様子の聞き取りを行い、事業所としての意見をまとめる。会議には施設長または主任が施設内で集約した意見を基に参加している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	15	1		<ul style="list-style-type: none"> ・LINEで保護者様と情報連絡を行い、HUGでも記録を行う事で伝達ミスを防いでいる。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	13	3		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者様と協力し、「施設」、「保護者様」、「医師」の三方で連絡を取り合っている。必要に応じて投薬指示証明書などの作成を依頼している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	9	7		<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援事業所から本事業所をご利用される場合、施設間で共同して見学の機会を設けている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	11	5		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者様ならびにご本人様、相談員様または他施設様より要望があった場合には保護者様ならびにご本人様とも相談した上で対応出来るよう準備を整えている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	8		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門機関からいただいた連絡を基に、研修に参加している。参加できなかったスタッフには研修報告書を作成し、共有することで事業所全体の支援の質の向上に繋げている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		7	9	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源とのつながりの強化を図るため、実施に向けて検討を行う。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	7	7	2	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会に向けて参加することができるように日程を調整している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	12	4		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の日頃の様子をスタッフ間で共有し、にしの台教室の意見や思いとして集約する。保護者様と送迎時やSNS、お電話などを用いて必要に応じて近況や支援方法の相談、行動の変化をお伝えしている。

	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	7	4	・本事業所でご本人への支援を検討し、保護者様にも内容と結果を面談等で共有している。その中でご自宅でも同様の支援を行う場合には本事業所で支援した場合の留意点などもご家族と共有している。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	11	5		・本施設の契約時に必要事項や質問があった場合には説明を行う事で、双方の合意が得られた上で契約を行っている。利用して頂いている中で生じた疑問についてはその都度ご連絡をいただき、疑問の解消にあたっている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	14	2		・利用者様一人一人と向き合い、保護者様から相談があった場合にはスタッフ間で共有している。にしの台教室としての意見を集約し、悩みに対するアプローチを提案する。最終的な判断はご家族様の判断を尊重している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		8	8	・父母の会や保護者会などは実施していない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	11	5		・苦情に対応するスタッフを選任し、契約時に利用者様ならびに保護者様にお伝えしている。苦情が生じた際には選任されたスタッフが本事業所での意見の集約、利用者様ならびに保護者様からの意見の集約を行う。改善点については双方に共有し、支援と体制の健全化を図る。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	9	1	・会報は作成していない。日々の利用者様の様子は連絡帳にて行っている。
	35	個人情報に十分注意している	15	1		・利用者様の個人情報が記載されたファイルの保管場所を決めている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	13	3		・本事業所では利用者様の「選択制」と「意思決定」に重きを置いて支援を行っている。絵カードやジェスチャーを始めとして、利用者様の「声なき声」に対応することができるように情報の収集や共有、支援方法の検討を行っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		12	3	※無効票：1 ・地域の方々と買い物や食事の夕食などで関わっている。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	10	5	1	・BCP委員会を組織し、株式会社波音として緊急事態が発生した場合の事業継続計画を策定している。随時保護者様にも周知させていただく予定。